



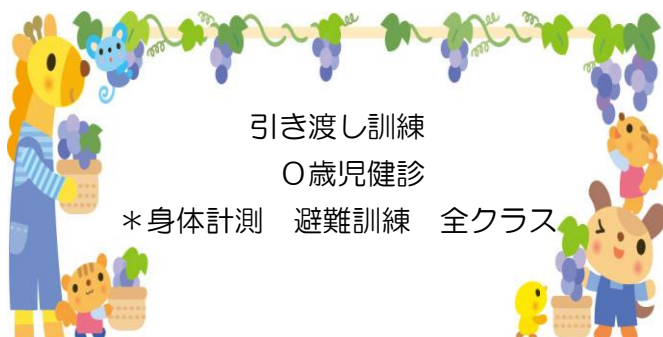
みなみ 園だより 9がつ

令和7年9月1日
目黒区立南保育園園長

今年の夏は厳しい暑さとうまく付き合いながら、夏ならではの活動を各クラスが工夫し取り組んできました。2歳児クラスは隣のスペースで幼児クラスがプール活動をしている姿を横目に見ながら、水遊びを楽しみました。絵の具や自然物を利用し色水遊びもたくさんしました。ある日、「ねえ、園長先生見てごらん」と透明の器に水と葉っぱが入っているものを見せてくれました。「ごしごししてごらん」というので水の中で葉っぱを指でこすりあわせると、ねばねばしてきました。「もしかしてオクラの葉っぱ？」と聞くと「そうだよ」と得意げです。私もはじめての経験だったので感激しました。またある日は、部屋で使っている布物をたらいの中にいれてごしごし洗い、しばってロープにかぶせてたくさん干していました。「たくさんお洗濯したね。上手に干しているね」と声をかけると「〇〇ちゃん、たくさんお洗濯したんだよ」と言います。「助かるわね」と言うとても良い表情で笑っていました。興味を持った事や発見した事を色々と試したり、日常の経験を再現したりする中で子どもはたくさんのかんじを心で感じ、この夏も大きく成長したように感じました。

10月には運動会を予定しています。厳しい暑さのため戸外での活動はなかなかできませんが、ホールを使って運動会の取り組みもにぎやかに行っています。夏の活動を通して心も体も成長した子どもたちがまた次のステップを上がっていけるよう、職員みんなで力いっぱい応援したいです。

今月の行事予定



引き渡し訓練

0歳児健診

*身体計測 避難訓練 全クラス

子どものつぶやき

(3歳児クラス)

子ども 「コップやさんでーす」
保育士 「なんのコップがありま
すか？」
子ども 「コップコーンでーす」

ヒーロープール

～ 地域の保育園も楽しんでいます ～

数年前から、区内の私立保育園もプール活動を経験できるように、ヒーロープールという制度を公立保育園で始めました。南保育園にもヒーローバスに乗って、近くの小規模園から遊びにきます。3階のテラスには、保育園の備え付けの大きなプールと幼児の水遊びコーナー、ヒーロープールの簡易プール、2歳児クラスの水遊びのコーナーがあり、とても楽しそうな光景です。

ヒーロープールで来た子が10人くらいと多い時は、水遊びを幼児と一緒にすることもあります。「ヒーロープールのお友達も一緒にいいかな」と声をかけると、「いいよ、これ使う？」と快く仲間に入れてくれるのです。また、せっかくバスに乗ってきても、暑さ指数の関係でプールに入れない時には、幼児クラスと一緒に遊んでいくこともあります。

色々な人が園に来ることで自然に関わりが持て、保育園だけではない人間関係が広がっているのを感じます。





3歳児 でんでんむし組

クラスにとっては憧れの、保育園で初めてのプールです。プール開きをする前から、「私の水着はピンクなんだ」「かっこいいカバン（プールバック）なんだよ」と楽しみにしていました。

いざ、プールに入ると冷たい水の感触と飛んでくる水しぶきに最初は顔をしかめている子もいました。遊びの中でカラーボールなどを沈めて『宝探し』をしたり好きな生き物の真似をしながらフープくぐりをしたり、みんなで水の中をぐるぐる歩いて『流れるプール』をする中で、水にも慣れ日に日に笑顔が増えていきました。また、こおろぎぐみやとんぼぐみが泳いでいる姿を見て、「すごいね」と刺激を受け、素敵に泳ぐ

姿をイメージしながら遊ぶ姿も出てきています。できるようになったことがとてもうれしく自信となったようです。「もっと遊びたかった」とプールじまいを残念がっており、今から来年のプールを楽しみにしている子どもたちです。



4歳児 こおろぎ組

クラス前のテラスで色水遊びをしました。タライの水に絵の具を垂らすと一気に色が広がり、水に色が付くところを観察しわくわくしている様子でした。色は赤、水色、黄色、黄緑を用意しました。始めは単色でボトルに入れ保育士に見せたり、日光に当てて「キラキラして見える」と楽しんでいました。色を混ぜると色が変わることに気づき、ボトルに色を足し、いろいろと試しながら遊んでいて、「同じ黄色なのにちょっと違う」と混ぜる割合によって微妙な色の変化に気づいたり、いろいろな色のボトルを並べて「虹」を表現している子もいました。友達が作った色を見て「どうやって作ったの?」と作り方を聞いて友達同士で同じ色を作って楽しむ姿もありました。

今後も絵の具を使って描画をしたり全身を使ってボディペインティングをしたり、色の面白さや楽しさを感じられるような遊びを楽しんでいきたいと思います。



5歳児 とんぼ組

プールが始まる前、今年はどんなことを楽しみたいか、どんなことができるようになりたいか目標を立てました。「イルカジャンプしたい」「目を開けて水中じゃんけんをしたい」「蹴伸びで端まで行く」「プールで浮いてみたい」等、一人ひとり自分の目標を掲げてプールに入りました。プールに入る回数を重ねていくうちに「目、開けられたよ」など、目標にしたことができるかと報告してくれることが増えてきました。反対にさすがに無理そうと感じて少し目標を下げ、見事に達成する姿もありました。

子どもたちは目標を立てながら、自分がどれくらいのことができそうかと考えたり、理想と現実との差を感じ気持ちを葛藤させたりする経験をしてきたと思います。保育士が多くを語らず見守ることで、子どもは自分で自分のことが分かり、この目標ならきっと達成できる、と一人ひとりが考えるようになっていきます。自分で立てた目標を達成することで自信がつき意欲的になっている子どもたちが今後も様々な活動に取り組めるようにしていきたいです。

